

作成日：R3年7月14日

令和3年度第2回 高松圏域自立支援協議会 運営会議議事録

日付	令和3年7月9日(金)
時間	9:20-10:50
開催会場	かがわ総合リハビリテーションセンター第1研修室
参加機関等	高松養護学校・高松市健康づくり推進課・高松市障がい福祉課・三木町福祉介護課・直島町住民福祉課・障害者就業・生活支援センターオーブ・障害者生活支援センターほっと・障害者生活支援センターたかまつ・障害者生活支援センターあい・相談支援センターりゅううん・発達障害者支援センターアルプスかがわ・地域生活支援センターこだま・支援センターgaryu・相談支援事業所ライブサポートセンター・地域活動支援センタークリマ・高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 計17名

議題1：各部会等活動報告	
議事	<p>主な報告内容)</p> <ul style="list-style-type: none">・発達障害部会：高校生活ガイドブックの普及では学校での活用についてSSTを使い伝えていく。市町職員研修はケースカンファレンス等も展開していきたい。市町毎に体制も異なりニーズも異なるので柔軟に対応していくことが望ましい。・子ども部会：昨年度実施できていない児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会を下半期に予定しているが、例年50人以上が参加するため実施方法の検討が必要。ニーズ調査の結果をホームページに掲載することを上半期に実施したい。6月に行われた高松地区小学校教頭研修会に参加し、子どもの使える福祉サービスについて情報提供をおこなった。新規立ち上げサービス提供事業所について行政が作成している事業所一覧に掲載されるまで時間がかかっており情報提供のし辛さがある。自立支援協議会ホームページ内に掲載している事業所情報も随時更新をおこなっているが、事業所からの発信があれば対応となっているため事業所によって差がある。・医療的ケア部会：今年度は医療的ケア児等コーディネーター活用についての検討と、保健師との連携について協議していきたい。また今年度設置された医ケア児等支援センターとの連携・役割分担も検討していきたい。医ケア児等支援センターはメールでの相談体制となっている。保健師は新型コロナ感染症ワクチン接種等の対応が優先されるので具体的な動きは下半期になることが予想される。今年度は

	<p>放課後等デイサービスの医療的ケアが必要な子どもの受け入れに対して加算が充実し、地域全体で取り組んでいくシステムを作っていくことが求められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス事業所連絡会：昨年度事業所向けに困りごと調査を実施し、その結果を元に今年度の研修テーマを検討している。テーマの案として「困難ケースの対応」「ヘルパーの離職、人材不足」「新型コロナウイルス感染症の対応」が上がっている。より現場の方が参加しやすい研修方法を考えたいので意見が欲しい。移動支援の好事例については全国展開の居宅介護支援事業所に問い合わせたが該当するものは無かった。 ・当事者団体家族連絡会：昨年度までに作成したコミュニケーションボード（うどん注文お助けボード）を香川県全体に広めたいという意見が出ている。今年度新たに直島町役場ホームページ、高松市広報誌に掲載いただき、うどん店でも設置いただいた。移動支援の好事例について情報はなかった。事務局を中心に引き続き他県の情報を収集していく。 ・地域生活支援拠点検討部会：訪問系ワーキンググループでは障害種別で事例を集めており、どのような資源があれば当事者が地域生活を継続できるか情報を蓄積している段階。事業所ワーキンググループでは緊急時の定義を親亡き後に絞り取り組む予定である。2つのワーキンググループの動きを各部会へ共有すると共に、実際に起きた緊急対応ケースについて検証をしていく。強度行動障害スーパーバイザー派遣事業は既に今年度3件の依頼があった。みんなで検討できる場も必要だと感じており意見集約を実施したい。 ・新型コロナウイルス感染症の対応について：新型コロナウイルス陽性で入院した際、退院の基準が変わり退院時にPCR検査を受けることが無くなった。医師からはまだ感染させる可能性があるので1か月は通所やヘルパー利用等、家族以外との接触は控えるよう指示が出たが、家族だけで1か月過ごすことは難しいケースもある。また、単身者はどのような対応になるのか相談員としても不安を感じる。また、退院時にPCR検査がなく、検査を希望しても自費になるので本人負担が大きいと感じた。感染リスクに注意をして支援に入って欲しい。そのために必要な物品が無い場合は行政が相談に応じることもできる。
決定事項	—
今後の動き	—

議題2：事務局からの報告	
議事	主な報告内容) ・主任相談支援専門員について ・源泉徴収について

	・名義後援の依頼
決定事項	
今後の動き	・主任相談支援専門員養成研修について：令和 3 年度～4 年間は四国ブロックで開催し、5 年目からは香川県で開催する予定。受講推薦者の選定方法は圏域内受講状況により変更することもある。

令和3年度第2回高松圏域自立支援協議会運営会議

日時) 令和3年7月9日(金) 9:20-10:50

場所) かがわ総合リハビリテーションセンター第1研修室

参加者) 香川中部養護学校(欠) 高松養護学校 高松市健康づくり推進課 高松市障がい福祉課
三木町福祉介護課 直島町住民福祉課(欠)
就労支援部会) かがわ総合リハビリテーションセンター成人支援施設
障害者就業・生活支援センターオリーブ
精神保健福祉部会) 障害者地域生活支援センターほっと
相談支援部会) 障害者生活支援センターたかまつ
身体障害者支援部会) 障害者生活支援センターあい
知的障害者支援部会) 相談支援センターりゅううん
発達障害部会) 発達障害者支援センター「アルプスかがわ」
こども部会) 地域生活支援センターこだま
医療的ケア部会) 一般社団法人 garyu
当事者団体・家族会連絡会) 相談支援事業所ライブサポートセンター
居宅サービス事業所連絡会) 高松市社会福祉協議会訪問介護事業所(欠)
地域活動支援センタークリマ
会長、事務局) 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

議題)

①各部会等報告 9:20-10:35 (各部会10分×6+全体15分)

- ・発達障害部会
- ・こども部会
- ・医療的ケア部会
- ・居宅サービス事業所連絡会
- ・当事者団体家族会連絡会
- ・地域生活支援拠点検討部会

②事務局より 10:35-10:50

主任相談支援専門員について
源泉徴収について

③その他

高松圏域における令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修
受講推薦者の選定方法

この度は、高松圏域における令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修受講推薦者選定方法に関するご意見をいただきましてありがとうございました。

さて、事務局では、皆様からのご意見を参考に「高松圏域における令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修受講推薦者の選定方法（以下、「選定基準」という。）を以下のように取りまとめました。

選定基準

「令和3年度四国ブロック主任相談支援専門員養成研修開催要領」を基準とし、受講者を推薦するものとする。ただし推薦された者の活動エリアが、一部の市町に偏ることがないように配慮するものとする。具体的には、本人が、本研修の受講を希望し、以下の要件①～⑤のすべてを満たすと運営会議で認めた者を優先的に推薦する。ただし、すべての要件を満たす者が、複数名選定された場合は、各市町担当者と推薦された者と協議し、運営会議にて受講者を決定する。さらに、要件①～⑤のすべてを満たす該当者がなくなった場合は、要件①～④の基準を満たす者を推薦するものとする。本選定基準は、四国ブロックでの実施が予定されている令和3年度から令和6年度までの基準とする。

（要件）

- ① 障害者等への相談支援業務に関し、十分な知識と経験を有する相談支援専門員のうち、相談支援従事者現任研修を修了した後、本研修の受講開始日前において相談支援又は障害児相談支援の業務に従事した期間が3年（36か月）以上である者
- ② 本研修を受講後、高松圏域内での人材育成（事例検討会、GSV等）、相談支援従事者研修への講師参加及び実習受入等積極的に担う意思のあり、各市町から推薦を受けた者
- ③ 基幹相談支援センター又はそれに準ずる機能を有する相談支援事業所等の相談支援専門員であること。（高松市、三木町、直島町のいずれかが、③の要件に当てはまる相談支援事業所として認定していること。）
- ④ ③の相談支援事業所等において現に相談支援に関する指導的役割を担っている者。
- ⑤ 都道府県における相談支援従事者研修又はサービス管理責任者等研修において研修の企画に携わっていること又は講義若しくは演習に講師として携わっている者。

*WG=ワーキンググループ

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標
1	就労支援部会	<ul style="list-style-type: none"> 企業向けに障害者雇用フォーラム、しごとサロンたかまつ(障害者就職相談会)の開催 障害のある高校生・大学生の就労支援として、高校・大学を訪問し、先生・生徒・父兄に対し、啓発したり、必要に応じて就労支援していく。 	<p>会議を通して、今年度の計画について検討していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会議をzoom等オンラインで実施したいが、IT環境を設定できておらず、苦慮している。 コロナ禍のため、雇用フォーラム、しごとサロンたかまつの実施方法を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> しごとサロンたかまつを8月に実施していく。 訪問等をGoogle Driveなどの手段で管理し、関係機関職員が進捗を共有できるようにしていく。
2	精神保健福祉部会	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉関係者による協議の場の継続 地域移行・地域定着の推進 ピアサポーターや関係機関、支援者間の連携強化 大川圏域との連携・協力体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 4月中に今年度の部会・WGの活動計画について一部共有。(WGによっては未開催) 部会の開催方法についても調整。 5月については会議を中止。高齢者の退院支援の流れの資料確認。広報準備。 6月の活動については未定。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大状況によっては、協議の場自体が継続困難。 医療機関に入ることが難しく地域移行支援が進めにくい。 ピアサポーター関係者についてはリモート会議自体が困難。 大川圏域の部会も中止となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 部会全体として、対面会議以外の方法の検討と整備。(リモート会議、メール・書面会議等の検討)
3	相談支援部会	<ol style="list-style-type: none"> メンバー全体の意見が集約できることを目指す WGの目的を明確にし、ゴールを目指す 相談支援専門員全体のスキルアップを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 4月はZOOMを利用して、会場とのハイブリッドで実施した 5月はコロナの感染拡大に伴い、部会は中止し、メール上での意見のやり取りとした 参加者が多いこともあり、メール上で意見のやり取りをすると、集約が煩雑となるので、6月はまたZOOMと会場でのハイブリッドで実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> 強度行動障害のある方の緊急時の受け入れ先がないことと、行動援護や移動支援の提供事業所がない コロナに関する情報共有(事業所に関すること等)ができていない 利用者、家族が濃厚接触者になった場合のサービス提供が難しい 事業所全体のヘルパー不足 	<ul style="list-style-type: none"> これまで出てきている課題について、地域での状況を検証する 進捗が遅れている研修やWGの検討に着手する
4	身体障害者支援部会	<ul style="list-style-type: none"> ○防災に対する取り組み ・サービス提供事業所向け研修会の実施・災害弱者あんしんネットワークとの連携・起震車を活用した体験の機会を設ける ○ピアサポーターに関すること ・県が行う研修へ参加し共有する。・Zoom等オンラインでの活動が可能か探る ○地域移行に関すること ・県協議会の動向を把握し、状況に応じて具体的な取り組みを検討する。 	<p>1回目会議 4月14日(水)実施</p> <p>今年度の会議の在り方、役割分担の確認</p> <p>5～6月</p> <p>研修会日程、会場、講師の選定をおこなった</p> <p>起震車の活用について情報収集をおこなった</p> <p>6月16日(水)実施予定</p> <p>情報を共有し、実施に向けた段取りと検討していく</p>	<p>研修会、起震車の活用共に、コロナ禍のため、実施できるかどうか不安がある。</p>	<p>実施に向けた具体的な準備を進める</p>
5	知的障害者支援部会	<p>親なきあとWG、地域移行WG毎にk活動する。部会年3回、各WG年4回を予定。親なきあとWG：保護者と担当相談支援専門員が緊急に備えて協力して準備できることを整理し、関係機関との情報共有、協力を促す。地域移行WG：現状やこれまでの取り組みを整理して共有し、広く考えることができる体制をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 4月コアメンバーで打合せ 5/7部会実施し、今年度の活動について確認する。 6月それぞれWG開催を予定している。 	<p>(←WG実施後の記載とする)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 7～8月 各WG開催 9月部会を開催し全体共有する

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標
6	事務局	<ul style="list-style-type: none"> 部会や協議会の課題への取り組みがより共有され充実するよう運営会議のあり方を見直す。 意思決定支援WGにおいて、相談支援専門員とサービス管理責任者の協力のもと研修を行う。 災害時WGにおいて、医療的ケアの必要な方の災害時プラン作成を進める。 就労継続支援B型事業所の協議会との連携の在り方検討WGにおいて、就労継続支援B型事業所間との連携を促進する取り組みを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に新しい運営会議のもちかたを提案しご意見をいただき決定した。 5～6月にかけてメールでの意見交換による全体会を開催している最中である。 5/11よりコロナウイルス感染拡大により協議会活動を中止、6/1より部会活動のみ一部再開している。 4月、意思決定支援WGを開催しモデル事例のその後の状況と実施する研修について協議している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響で新しいかたちの運営会議が開催できず7月に実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しいかたちの運営会議で7月、9月を実施予定である。
7	発達障害部会	<ol style="list-style-type: none"> 高校生活ガイドブックの普及 市町職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に事務局会を開催して、左記1) 2) について確認した。 5月の事務局会は開催できず、進捗はなかった。 6月25日に事務局会を開催して、具体的な進め方について協議する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 高校やそのほかの現場へのガイドブックの普及のために、それぞれの機関との連携/交流を図る。 2) 市町窓口のニーズを掘り起こして、それに応えるための方法を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 県教委や市教委と協議を行い、講師派遣などの形で、ガイドブックを用いたSSTを現場で実施する。 2) 1市2町のいずれかと今後の研修の内容や方法について協議する。
8	こども部会	<ol style="list-style-type: none"> 福祉サービスニーズアンケート結果についての意見交換/上半期 児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会(1回)/下半期 小・中学校の教頭先生との合同研修会に参加(1回) 上半期6月 相談支援専門向けの研修会の開催(1回)/下半期 部会開催(年2回) 上半期/下半期 HPの事業所情報の追加・更新・改訂/上半期 	<ul style="list-style-type: none"> 4月：部会開催なし 5月：協議会HPの更新(新規事業所掲載・相談支援事業所情報更新) 6月の教頭先生との研修会に向けて基幹中核と電話で内容の相談を行う。6/15の教頭先生との研修会で「子どもの使える福祉サービス」についてこども部会から30分程度、情報提供の予定 6月中に部会員にメールで今年度の計画や現況を報告予定 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で部会開催が出来ていない。 昨年度にHP掲載予定だった福祉サービスニーズアンケートの結果について部会内で最終の確認作業が出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月：コロナの状況を見ながら可能であれば部会を開催。※開催が難しい場合はメールで意見交換を行い集約する。 7～9月：福祉サービスのニーズアンケートの結果については、上半期のHP掲載を目指す。
9	医療的ケア部会	医療的ケア児等コーディネーターの活用・保健師との連携・医ケア児支援センターとの連携	5月に会議予定でしたが、行えていません。圏域の行政・保健師さんがワクチン接種でお忙しい、今後の予定も未定です。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での会議の開催方法・医ケア児支援センターの活用について 	<ul style="list-style-type: none"> 医ケアコーディネーターの会議を開催 医ケア児支援センターとの連携について検討
10	居宅サービス事業所連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 取り組む事項 調査結果をもとに、どのような内容の研修を開催するか検討する。 コロナ感染状況を踏まえ、研修の形態について検討する。 主な予定 実行委員会の開催 連絡会の開催 サービス提供責任者研修の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 4月 第1回実行委員会開催 2年度困りごと調査の結果に基づき、今年度の研修について考える。「困難ケースへの対応」「ヘルパーの離職 人材不足」「新型コロナウイルス感染時や濃厚接触とされた時の対応」の3つが挙がった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染状況により、どのような形態の研修がよいのか、事業所が参加しやすいのか、検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回目の連絡会を開催し、「新型コロナウイルス感染時等の対応」について、体験した事業所の情報提供、参加者での情報共有をする。 研修の形態については要検討。(会場、オンライン等)

no.	部会名	今年度の目標	4～6月の振り返り	課題	7～9月の目標
11	当事者家族会連絡会	合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知していく。	直島町が、ホームページ上に当事者団体・家族会連絡会で作成したコミュニケーションボードを5月にアップしてくれています。	移動支援利用に関する好事例を各家族会に電話・メール等で問い合わせをしたが、成果がなかった。	引き続き合理的配慮の提供が、高松圏域で進むように、周知をしていく。
12	地域生活支援拠点検討部会	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問系サービス見守り支援WGでは、今年度中に、地域生活を継続するために自立生活援助の活用が有効であることを関係事業所へ伝える。 ・事業所WGでは、「緊急時」の定義についての認識の統一を図り、昨年度参加できていない生活介護・短期入所・計画相談の各事業所に対して、周知・啓発を行う。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣については、引き続き希望事業所等への派遣調整を行うとともに、講師や派遣を受けた事業所等から現状や課題をうかがい、集約する。 ・部会全体での協議の場をもち、方向性や地域生活支援拠点の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高松市緊急時支援事業についての検証を実施している。実際に生じた緊急時支援事業利用ケースを関係機関で振り返り、事業の検証を行っている。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣について相談があり、調整中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会も含めて、地域生活支援拠点を検討する場の整理が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会も含めた、地域生活支援拠点を検討する場についての整理を行う。 ・強度行動障害に関するスーパーバイザー派遣について調整し必要なかたちで実施する。

